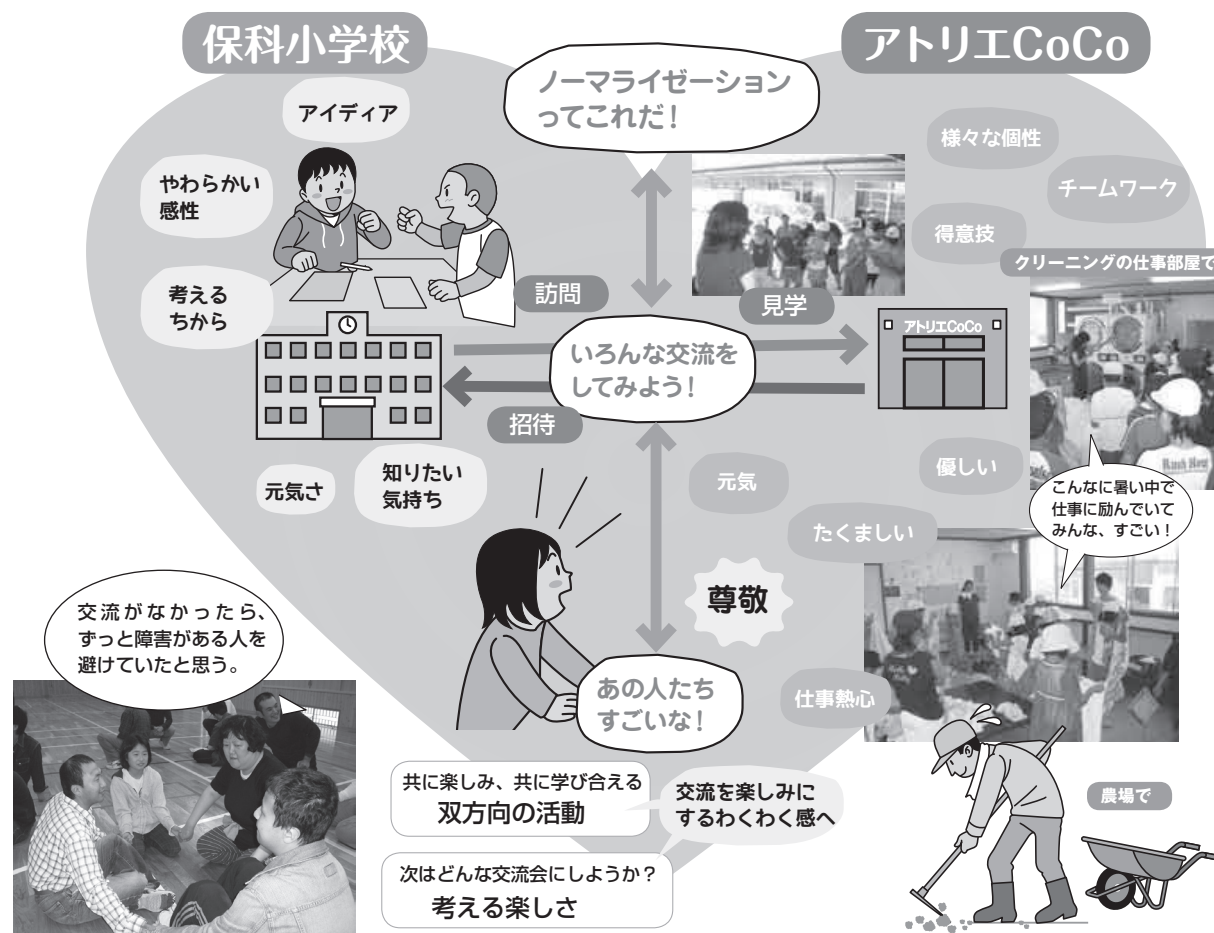


ノーマライゼーション=みんな友だちと知る



「地域で普通に暮らす」ってなんだろう？

1990年代以降、「障害がある人も地域で普通の暮らしをする」ノーマライゼーションの考え方が福祉施策の中に盛り込まれてきました。そのことにより、かつては「障害がある人は専門の施設で暮らす方が良い」とされ、ずっと施設の中で暮らしていた人々が、様々な制度やサービスを利用しながら地域で暮らせるようになってきました。今の大人たちが子どもだった頃と比べて、地域で障害がある人に会える機会が増えているのには、こうした背景があります。

アトリエ CoCo のような地域で働く施設、普通の家のよう
な建物で共同生活を行うグループホームなどの他、一般の企業
で働いたり、アパートや公営住宅で自立して暮らしている人も、
結婚して家庭を築く人もいます。

障害があるということは、日常生活の中で、ある一部分について「暮らしにくさ」を感じることもある、という状態です。障害がある人も私たちがそうしたいと思うように、住み慣れた地域で、いろいろな人と関わりながら、自分の力を活かし、自律的な生活をするを願っています。それは当たり前の権利で、誰にでも保障されています。

障害がある人は特別な人ではありません。一人ひとりが当たり前の、私自身と同じようにかけがえない個性を持つ一人の人だということを心に留めておくことが大切です。

協力：長野市立保科小学校(長野市)、社会福祉法人廣望会 アトリエ CoCo(長野市)

発行日：平成25年9月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 総務企画部 地域福祉推進グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>

「障害がある人の施設との交流」活動のポイント

①まずは、いいとこさがし

保科小学校とアトリエ CoCo の交流では、第 1 回目は必ず皆さんの働いている様子を見学に行きます。何にもできない人だと思っていたのに、大変な仕事を一生懸命やっているということに、子どもたちは驚き、感動します。この感動が、「もっと知りたい! 会いたい!」という思いにつながっていきました。

②時間をかけて、顔の見える関係づくり

時間をかけて、一人ひとりの顔が見える交流になっていることもポイントです。一人の人として出会うことで、お互いの魅力や障害のことをよく知っていくことができます。「偏見」は相手を知らないことから生まれてくるのです。身近なところで、日常的な出合いを重ねていくことで、同じ地域に暮らす仲間同士という意識、顔の見える関係が育っていきます。

③一方的に与えるのではなく、双方向の交流

子どもたちはどうしたら一緒に楽しめるかを調べ、工夫して企画を考えました。回を重ねるごとに、自分たちを気遣ってくれる CoCo の人たちの姿から学ぶこともたくさんあると気づきました。どちらか一方と与えるのではなく、お互いいい時間を共有することで、自分たちにとって大切な友だちと思える連帯感が芽生えました。

結實さんいわく、「案ずるより産むが易し」ですよ。



小学生ボランティア新聞 ふろく
このまちでみ～んな友だち！

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.128
今号の特集から

ノーマライゼーションを体感！
長野市立保科小学校と障害がある人の施設アトリエ CoCo との交流活動



事例の概要

アトリエ CoCoとの交流活動 「絆」プロジェクト

ある日、長野市立保科小学校の5学年を受け持つ篠原賢朗先生は、子どもたちが障害がある人に対して差別的な言葉を使っているのを聞きました。ショックを受けた先生は、学級で話し合いの場をもちました。

子どもたちはすぐに「反省した」と言ったけれど、本当に心で受け止めてもらえたかどうか、障害のある人を心で理解し、共に生きていける人になってほしいのだけれど……。

そんな思いを抱えた先生は、学区内に障害がある人が働く施設「アトリエ CoCo」があることに気づきます。さっそく施設長の綿貫好子さんに相談。真夏の暑い日、子どもたちは施設見学に行きました。「障害がある人は、どんな人だろう」。そう思いながらの訪問でした。

CoCoの皆さんの仕事は高温の中でのクリーニング作業や、野菜の出荷。暑い中での重労働に、一生懸命取り組んでいました。「障害がある人は何もでき

ないから、仕事も簡単」と思っていた子どもたちの先入観が吹き飛びました。CoCoの皆さんは初めて会ったのに、笑顔で迎えてくれました。「障害があっても、できることを頑張っていて、私よりずっとすごい」「帰るとき、見えなくなるまで手を振ってくれたよ」……子どもたちは驚き、感動し、もっとその人たちのことを知りたくなりました。こうして、交流活動「絆」プロジェクトが始まりました。

みんな一緒に生きている、
それが「ノーマライゼーション」

交流では一緒にものを作り、ゲームをしました。教えたり、教えられたり、協力して何かをしたりする、双方向の交流です。

歌を歌うと、一緒に歌い踊って嬉しい気持ちを全身で表現する CoCo の皆さん。初めは驚きましたが、まっすぐに気持ちを伝えてくれるので、みんな嬉しくなってノリノリ。ゲームをすれば、勝っても負けてもみんなハイタッチ！ 回を重ねるごとに、子どもたちは、どうしたら一緒に楽しめるかを調べ、工夫して企画す

るようになりました。

聞こえない人には、覚えてたの手話で
ごちなく話しかけました。新築された
体育館に招待し、手作りのおやつでもて
なしました。CoCoの皆さんは、子ども
たちと共に過ごす時間を心から楽しんで
くれました。

「絆」プロジェクトは、子どもたちが卒業するまで続けました。6年生の3月、最後の交流会では、CoCoの皆さんが、この日のための特別な替え歌を贈ってくれました。思い出の写真で一緒にしおりを作り、アトリエ CoCo からの感謝状をいただきました。「この交流がなかったら、私はずっと障害のある人を避けていたと思います。でも、皆さんに会って、みんなと同じなんだと思いました」「これで最後だと思うと、さみしい…」。

綿貫さんは、「ノーマライゼーション」という言葉を教えてください。「どんな人でも、地域で普通に生活をしていくこと」、つまり「みんな友だち」ということ。アトリエ CoCo の皆さんを、子どもたちは友だちとして、心から尊敬しています。それが「ノーマライゼーション」なのです。

プロセス

*篠原賢朗先生がまとめられた「アトリエ CoCo のみなさんと、保科小学校6年生の「絆」プロジェクト」～2010年7月～2012年3月までの活動報告～をもとに構成しました。

障害がある人を理解していく認識の三段階

概念的段階

(抽象的・普遍的段階)

ノーマライゼーションって何?

思考の「のぼりおり」

過渡的段階

(半抽象的段階)

思考の「のぼりおり」

ノーマライゼーションを自分の体を使って体験

体験的段階

(感覚的・具象的段階)

参考文献「認識の三段階」増補版
庄司和晃著 季節社刊

初めての CoCo

施設見学

- ♥ 綿貫さんのお話
「アトリエ CoCo ってどんなところ?」
「障害がある人ってどんな人?」
「ノーマライゼーションってなに?」など
- ♥ 施設の見学
農場、クリーニング工場
- ♥ CoCo の皆さんにご挨拶
- ♥ みんなで合唱

5年生

暑いにお仕事を
がんばってやっていて
すごいと思った。障害のある人は私たちよりも
何倍、何十倍もがんばって生
きていることが分かりました。聞こえない人も
いるんだ……。「認識の三段階」から
見た子どもたちの変化子どもたちは第2回の交流からノーマライゼーションという抽象的な概念を自分の身体
を使って体験。自分で体験したこと、抽象的な理論と結びつき、体験的段階と概念的
段階との間を思考が「のぼりおり」することを通して、より深く理解していきました。CoCo の皆さんも楽しめるに
はどうしたらいいんだろう?フライングディスクなら
みんなで楽しめそう。聞こえない M さんにも
わかるように紙に文字で
書いて教えてあげよう。

二度目の訪問

CoCo で交流会

- ♥ 5年生が合唱披露
- ♥ 4チームごとに交流
①折り紙チーム
②フライングディスクと
ペタペタ遊びチーム
③しおり作りチーム
④リース作りチーム
- ♥ 綿貫さんのお話

歌を聞いて楽しそうに
踊る人がいて、
ちょっとびっくり。ぼくたちの歌が心に
届いているんだね。

5年生

交流会のための
歌や劇のリハーサル、
改善点の話し合いを
繰り返しました。普段みんなで活動すること
が苦手な人も、一緒に楽し
んでくれたようです。

2011年5月

小学校にご招待

学校でお楽しみ交流会

- ♥ 6年生による歌
- ♥ 劇
「保科小学校って楽しいところだね」
- ♥ お互いに自己紹介
- ♥ ゲーム
①「猛獣狩りへ行こう」
②「フライングディスクを楽しもう」
- ♥ 綿貫さんのお話

6年生

「劇、楽しかったよ」とか、
「ありがとう」と何度も
声をかけてくれて、
うれしかったです。もっと仲良く
なりたい。

ぼくたちと同じだ。

仲良くなろうと思って
たくさんの人と手をつ
なぐようにしました。

2012年3月

最後の交流会

お別れだけど、ず～っと友だち

- ♥ 6年生による歌
- ♥ ゲーム「ジェスチャーゲーム」
「つなげてつなげて」
- ♥ しおりをつくろう
- ♥ いっしょに歌を歌いましょう
「世界がひとつになるために」
- ♥ 綿貫さんのお話
感謝状をいただく

6年生

他人に優しくできる
人になりたい。私はアトリエ CoCo の
みなさんが大好きです!2年間の交流はよい
ことばかりでした。
CoCo のみなさんに
感謝したいです。

2011年11月

心の学習発表会

絆が深まる4回目の交流会

- ♥ 6年生による歌
- ♥ 劇「おかしな雪だるま」
- ♥ ゲーム「フライングディスク」
チームに分かれて競争
- ♥ おやつ時間
6年生が作ったスイートポテト
- ♥ 綿貫さんのお話

「絆」プロジェクトと命名

6年生

「ノーマライゼーション」とは何か 障害がある人への理解 認識の深まり

ねらい くふう 取り組みへの思い

誰もが持つ「素晴らしさ」に気づく子どもに

長野市立保科小学校 篠原賢朗先生

子どもたちから、障害がある人を
蔑視するような言葉を聞いた
時はショックでした。けれど、ただ
そういう言葉を使わない、と約束す
るだけでなく、子どもたちの中に芽
生え始めた、差別の気持ちを根絶や
しに出来ないかと考えたんです。

障害がある人への差別や偏見を持たない
でほしい。障害があるから何もできないのではなく、それぞれの
素晴らしいものがあると気づいてほしい。周りの友だち、学
校全体、身の周りのすべての人をそんな気持ちで考えられる子
どもになってほしいというのが、大きなねらいです。

障害がある人のことを考えながら接することができる子ども
は、いろいろな友だちも理解して接することができるのではな
いでしょうか。

♡♡♡

1 回目は仕事の見学に行き、一生懸命働く姿をまず見るこ
とから始めます。子どもたちは、大きな乾燥機の前で汗
だくになって熱の塊みたいな洗濯物を出している様子を見て
驚き、一生懸命な姿に感動し、皆さんがとても優しいことに
喜びを感じて、感動して帰ってきます。

毎回、こちらから何かを与えるばかりでなくて、CoCo の

子どもの時にこういう経験がなかったのが、障害がある
人たちは特別な人たちだとずっと思っていました。
私も毎回子どもと一緒に感動しながら勉強しています。
前の夜は興奮で眠れないくらい、楽しみにしています。

皆さんも子どもたちを盛り上げてくれるという、双方
のやり取りがあります。

交流会の企画は子どもたちが考えました。「CoCo の皆
さんのことを、よく思い出して。一緒に楽しめるものにしよう」と、
一人ひとりのことを思いやり、工夫をします。聞こえない
人と話すために、手話も練習しました。そういう準備も毎
回楽しみなんです。

交流の後には、全員の感想文を学級通信に載せます。家
の人にも読んでいただけるようにしました。大人たちも、これ
を読んで障害がある人に対する意識が変わっていきげいいと
思っています。6年生の児童が、「CoCo との交流がなかった
ら、きっと私は障害がある人たちをずっと避けていたと思
います」という作文を書いてくれました。本当にこれをして
良かったと思いました。

こんなにも多くのことを学ばせてくれる「教材」が近く
にある。利用しない手はないと思います。

長野市立保科小学校 (長野市若穂保科)

長野市の南東にある保科小学校は、明治6 (1873) 年に開校し、140
年以上の歴史を誇ります。近くにはボタンの寺として有名な清水寺、
保科温泉などがあります。全校児童136名 (平成25年9月現在)。

学校と、障害がある人が働く施設。「お互いを知りたい」という思いが会って、絆が結ばれました。子どもたちも
大人もいっぱい感動し、たくさん学び、大きく成長した「絆」プロジェクト。そのねらい、実践のポイントを聞きました。

「ノーマライゼーション」とは何かを体感して!

アトリエ CoCo 施設長 綿貫好子さん

篠原先生からご相談を受けたとき、子どもたちにはぜひ
「ノーマライゼーション」を、心と身体をいっぱい使って感
じてもらいたいと思いました。

「ノーマライゼーション」は、障害がある人が地域の中で一
緒に生活するのは当たり前。電車と一緒に乗るのも、一緒に働く
のも当たり前。みんな、地域の中で普通に生活したいんだよ、
ということ。みんな仲間で、一人ひとり誰にでもいいところは
あって、決して軽蔑したり、馬鹿にしたり、差別してはいけない、
ということ。赤ちゃん、お年寄り、障害がある仲間も、外国の
人も、み～んな友だち、同じ人間だよ、ということです。

♡♡♡

交 流にあたっては、「イベントではなく、コミュニケーション
を取りながら同じ活動ができるように、小グループにして、
CoCo のみんなを楽しませてください」とお願いしました。

CoCo の仲間たちは盛り上げるのがすごく上手。素晴らしい
「人間力」を持っています。音楽を聞くと踊りだしてしまう障害
が重い仲間もいて、最初は面喰らった子どもたちですが、でも
それが喜びの表現だと知ると、2回目からは「今日は楽しんで
くれた。もっと喜んでもらおう」と気づきます。

それが子どもたちの成功体験になり、知らないことによる偏
見や恐怖心がなくなっていく。こんなふうに関心を持ったら、
「ノーマライゼーション」への一番高いハードルは越えたような

もの! 互いを知ることが何より大事だと思います。

♡♡♡

大 人たちの中には、偏見が潜在的にあります。でも、子
どもたちが CoCo の仲間と出会って、大人にも伝えてくれる。
確実に地域が変わっていくと思います。

彼らは将来、障害がある人を支援する仕事に就くかもしれ
ない。企業の社長や、医者や、学校の先生になるかもしれない。
未来ある彼らが、障害がある人たちへの視線をもった大人に
なってくれたら、もっとぬくもりのある社会ができるだろうな
と思っています。



「子どもたちの中で障害がある
人を差別する言葉を言って同級
生を傷つけることがあると聞き、
私は悲しくて、心が折れそうにな
りました」という綿貫さん。
「俺たち素敵だろって自分から言
えない CoCo の仲間たちの素敵
さを感じてほしい。おうちの人や
地域の大人たちに、ぜひ伝えて
ほしいです。」

社会福祉法人廣望会 アトリエ CoCo (長野市若穂保科)
多機能型障害福祉サービス事業所。知的に障害がある人がそれぞ
れの特性に合わせて、クリーニング、農作業、軽作業を行っています。
自分の家やグループホームから通い、工賃(給料)を稼いで、それ
を小遣いや生活費にして、自立して普通に地域社会の中で生活して
います。 <http://www12.ocn.ne.jp/coco-net/>

